

修道高等学校入学適性検査 概要

【2025年度検査結果概要】

◆受検者数・合格者数・合格者平均点・合格最低点（近年5年分）

	2025年度	2024年度	2023年度	2022年度	2021年度
募集定員	約16名	約17名	約16名	約12名	約15名
志願者数	15名	19名	10名	16名	16名
受検者数	12名	16名	8名	10名	9名
合格者数	11名	12名	8名	7名	7名
合格者平均点	193.7	205.6	185.4	183.3	192.6
合格最低点	156	175	168	162	174

◆適性検査科目・時間・配点・受検者平均点・最高点（昨年度比較）

科目	国語	英語	数学	総点
時間（分）	60	60	60	
配点	100	100	100	300
2025年度平均	57.4	66.0	64.3	187.7
2025年度最高	73	84	100	62.6
2024年度平均	63.6	59.3	64.6	187.5
2024年度最高	81	87	93	242

◆検査結果について

今年度の受検者平均点は、昨年度とほぼ同じ数値となりました。各教科の問題の難易度は、国語が昨年度より難化、数学は変化なし、英語が昨年度より易化したようです。合格最低点は昨年度よりも20点近く下がりました。

◆志願者数について

15名が出願してくださいました。県外からの志願者も複数名いらっしゃいました。

◆合格者数について

合格者は11名で、昨年度より1名減りました。本校の中高一貫カリキュラムに対応できる学力を有すると判断したみなさんを合格といたしました。今後も、4月からの高校生活に備え、日々の学習に励んでください。

また、次年度以降、本校の受検をめざす中学生のみなさんは、以下に述べる各教科の講評も参考にし、真の学力を高めていきましょう。

◆各教科の講評

* 国語

1 【今年度の問題の難易度あるいは特徴的な問題の傾向・出題のねらいなど】

難易度＝標準

第一問【小説】（やや易しい）

■記号問題

問一：読解（易しい）

問二：語彙（易しい）

問四：読解（易しい）

■記述問題

問三（標準）

問五（難しい）

第二問【評論】（標準）

■記号問題

問一：語彙（標準）

問二：読解（非常に難しい）

問四：読解（やや難しい）

問五：読解（非常に易しい）

■記述問題

問三（標準）

問六（やや難しい）

2 【採点上の気づき・受検生のみなさんの解答の特徴・傾向など】

■総評

一般的に、修道高校の受検に向けて対策を綿密に講じてきたと思われる答案でした。解答用紙の全ての欄を過不足なく埋めてあり、受検に向けて頑張ってきたのだと感じられた。

■第一問（小説）

問三の記述は佳郎のおかれた状況とそれに対する心情を整理できればそこまで難しい問題ではなかったが、上手にまとめられている受検生と、そうでない受検生との点差が顕著であった。

問五の記述は、乃恵瑠の心境の変化をまとめる問題であった。解答の鍵となる「絵本」の効果についてはほとんどの受検生が解答していたが、乃恵瑠の心境の変化における「前提」と「変化の結果」について上手に整理できていた受検生は非常に限られていた。

■第二問（評論）

問二の記号問題は、空欄の前半では「主観の点数化の難しさ」を述べていて、後半では「点数という単純な指標による評価に対する懐疑的視点」が述べられていることを踏まえて解答する「抽象概念の理解」を問う穴埋め問題であったが、受検生にはかなり難しかったようである。

問三の記述は、本文中の言葉を用いて文章を再構築する力が求められるが、単なる本文の抜き出しにとどまっている受検生が非常に多かった。

問六の記述は「絶対的基準」が存在しないことに対するある種の「諦観」を皮肉めいてはいるものの肯定的に捉えているということを整理するというやや難しい問題で、上手にまとめられた受検生もいたが、表面的な記述に留まった生徒が多く見られた。

3【来年度以降本校を受検する生徒のみなさんへの要望・合否のカギなど】

記述問題では、「設問の意図に沿った答案であること」が何よりも大切である。「何を問われているか」を正確に把握せずに、いきなり書き始めないようにしよう。また、記述解答作成時には、「書いている最中に解答要件から文意がずれてしまう」ということがありがちだ。下書きを書ければベストだが、時間的な制約もあるので、せめて「文末」を先に想定してからそこに落ち着くように書くようにしよう。次に「本文をそのまま抜き出すよりも、自分の言葉でまとめること」が重要である。

全体的な読解においては「具体例」をもとに「抽象的な理解」ができるようになることが重要である。

記述力と抽象的理解の双方の実力をつけるには、日ごろから「国語の授業内容」「他教科の授業内容」「ニュース」「日々の会話」などを「自分の言葉でまとめること」が有効である。特に「国語の教科書」や「読書した本」などの要約はおすすめである。

4【著作物の利用】

出典：

著作者名（翻訳者名）・ふりがな 著作物名 出版社名/新聞社名

第一問【小説】 柘サナカ（ひいらぎ さなか） 『天国からの宅配便 時を越える約束』 双葉社

第二問【評論】 中屋敷均（なかやしき ひとし） 『わからない世界と向き合うために』 小学館

* 英語

1【今年度の問題の難易度あるいは特徴的な問題の傾向・出題のねらいなど】

問1は長めの物語文ですが比較的平易な文で書かれています。会話文が多く、そこから物語の流れと、人物関係を理解することが求められます。問2も物語文ですが、問1よりも若干難しめの文となっています。物語の流れをしっかりと理解することに加え、文法に関する設問もありますので、難易度は少し高めです。問3は誤文訂正で、基本的な文法を理解していれば解ける問題です。問4の並べ換えも基本的な文法をきちんと理解していれば難しい問題ではありません。問5の和文英訳も教科書に載っている例文をしっかりと覚えておけば解ける問題です。問6の自由英作文は、比較的書きやすいテーマなので、学習した文法事項を使って平易な英文で書くことが求められます。

2【採点上の気づき・受検生のみなさんの解答の特徴・傾向など】

問1は会話文が続くためか、人物関係の理解に混乱が見られました。また、長文の中から必要な情報を選び出して解答する問題で誤答が目立ちました。問2は、文法に関する設問でのミスが多く見られました。問3はまずまずの出来でしたが、基本的な文法知識が身につけていない受検生も若干見られました。問4の並べ換えは比較的よくできていました。問5の和文英訳は、よく書けてはいましたが、細かい文法事項のミスが目立ちました。問6の自由英作文でも接続詞や冠詞などの文法事項の誤りが多く見られました。多くの受検生は中学2年生までで習う文法でミス無く書こうとしていましたが、中には中学3年生で習う文法事項を駆使して、充実した内容の作文を書いた受検生もいました。

3【来年度以降本校を受検する生徒のみなさんへの要望・合否のカギなど】

英文読解力向上のためには、日頃から多くの英文を読みこなしておくことが大切です。まずは教科書の英文を、文法を意識しながらきちんと読みこなし、さらに、平易な英語で書かれた物語などをたくさん読むことをおすすめします。また、英作文力を向上させるためには、日頃から平易な英語を使って、身の回りの出来事や自分の考えたことなどを書いてみるとよいでしょう。また、自分の書いた英文を読み直して、読み手にきちんと伝わるかどうか確認することも大切です。

4 【著作物の利用】

出典：

著作者名（翻訳者名）・ふりがな	著作物名	出版社名/新聞社名
O. Henry,	Just A Little Irony, After Twenty Years,	山口書店, 2013
Tim Herdon,	The Bird of Happiness and Other Wise Tales,	OXFORD UNIVERSITY PRESS, 2011

* 数学

1 【今年度の問題の難易度あるいは特徴的な問題の傾向・出題のねらいなど】

基本問題と応用問題のバランスをはかりつつ、オーソドックスな出題を心がけています。今年度の平均点は64.3点で昨年度の64.6点とほぼ同じであり、例年並みの難易度であったと考えます。大問1は、中学校の学習内容の理解度と計算力をみる小問集合です。大問数が1つ減りましたが、その分だけ大問1が膨らんだ形です。大問2は記号を用いた整数の問題で、記号の意味を把握する力と思考力を試す問題、大問3は2次関数とそれに絡めた応用問題、大問4は定番の平面図形の証明と計量の問題です。例年と同様の傾向で出題しており、幅広くかつ深く学習しているかを試しています。

2 【採点上の気づき・受検生のみなさんの解答の特徴・傾向など】

大問1は(6)「場合の数」以外には特定の難しい問題はなく、受検者個々が間違えた問題もバラバラで、勘違いやちょっとしたミスで失点していました。大問2～3は、後の方の小問で正答率が下がりましたが、例年に比べてもよくできていたと考えます。大問3の証明も、昨年度と同様によく書けていました。全体的な失点の場面では、例年指摘する計算ミスを含めて、単純な書き写し間違いなどのケアレスミスが目立ちました。得点の散らばりは昨年度よりもやや大きくなったものの、全体的によくできていたと判断します。

3 【来年度以降本校を受検する生徒のみなさんへの要望・合否のカギなど】

数学の実力向上には、計算力が大切です。中学3年では、式展開や因数分解、無理数等を学びますが、ある特定の形をした式に対しどのような変形や計算が可能かを判断して、それを素早く正確に実行できるよう訓練してください。また、中学の定期テスト対策で終わらずに、高校入試レベルの問題演習も必ず行ってください。入試では複数分野にわたる融合問題が多く出題され、それによって総合的な力を試します。そのような入試問題にもこつこつと取り組んでください。

4 著作物の利用

特になし

以上